

ブルキナファソは西アフリカに位置し、北にマリ、東にニジェール、南東にベナン、トーゴ、南にガーナ、南西にコートジボワールと国境を接する内陸国だ。また、世界で最も貧しい国の一つとされ、国連開発計画による人間開発指数では、189カ国中182位と下位に位置している。

首都ワガドゥグは、周辺の沿岸国および内陸国をつなぐ物流の結節点としての機能を担っており、大型貨物車両の市中心部への侵入回避を目的とした環状バイパス道路（タンソババイパス）が整備されている。

大日本土木が施工を担当したワガドゥグ東南部タンソババイパス道路の区間は、バイパス全体の中で最も交通の集中する区間となっていたが、1990年の完成以来、全面的な改修が行われていなかった。そのため長年の使用で老朽化が進展し、路面や路肩の損傷が激しく、そうした劣化に起因した交通事故が頻発し、雨期には一部区間が冠

海外建設協会

プロジェクト便り

◆ブルキナファソ

ワガドゥグ東南部タンソババイパス道路改善計画

大日本土木

高品質アスファルト舗装で技術結集

水し通行不可能となるなど、多くの問題が発生していた。その上、日常生活での利用を目的とする一般車両や二輪車の増加により、タンソババイパスには大型車両から二輪車までが混在し、バイパス道路としての機能が十分に発揮されていない状況にあった。

円滑な交通と安全性の向上を目的とした道路改善計画のうち、当社担当の工事はタンソババイパス道路東南部区間（延長6.97キロ）の全面改修（2車線から4車線化）およびバイクレイン・排水側溝の新設、交通安全施設の整備（歩道、鋼製歩道橋、

ガードレール、標識など）で、2019年2月1日～22年2月28日（37カ月）にかけて実施された。

アスファルト舗装は、大型車の通行によるわだち掘れなどの影響を考慮し、改質アスファルトを適用。高品質の施工に当たり、技術移転の一環として現地特有の環境を考慮した配合設計、製造、施工、品質試験を、日本人技術者が中心となって行った。特に敷き均し温度を確保し、出来栄を良くするため、温度低下の防止対策としてフィニッシャー2台の並列施工で施工速度を落とさず、継ぎ目できるだけ減らすようにした。

材料ベースで1日約800（1000）規模（対象区間約1キロ）の施工を計画し、施工距離を長くすることで転圧機による不陸の発生を抑え平坦（へいたん）性の確保に努めた。転圧管理ではペイトラッカー（舗装密度測定器）を使用し密度管理を実施した。

また、交通量が多い既存主要バイパスの改修ということから、工事期間中は大型・一般車両、モーターバイク等の通行を阻害せず、安全に進める

2班体制による舗装施工状況



交通安全の意識改善にも貢献



市民が安全に横断できるように設置された鋼製歩道橋（橋長40m）
Ⅱ写真上Ⅱと完成後のタンソババイパス

年1月には軍事クーデターが発生した。これらの問題解決に向け関係各所の協力を得て、大きな影響を受けることはなく工期内に完成し、無事に供用開始することができた。

ことが課題となった。円滑な交通、迂回（うかい）路の確保のため、工事区間を三つに分けるとともに、地域住民へ交通安全の啓蒙（けいもう）活動、のぼり旗や夜間照明等の安全設備を設置した。施主、関係機関の協力もあり、円滑に工事を進められた。加えて継続した啓蒙活動により、住民の交通安全の意識改善につながることができた。

工事最盛期の中盤には新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、夜間の外出が禁止されたほか、20年3～8月の空港閉鎖で物流の制限、職員の往来ができず、少人数での現場管理を余儀なくされた。また工事終盤の22

（海外支店土木グループ長・伊川誠（前タンソババイパス道路工事作業所長））